報道関係者各位



2018 年 10 月 18 日 株式会社ジェイアール東日本ビルディング

~工業デザイナー 奥山清行氏の基調講演と大学講義が無料で受講できる~サピアタワー「東京オトナ大学」11/23(金・祝)開催

株式会社ジェイアール東日本ビルディング(代表取締役社長 石川 明彦)は、東京ステーションシティのサピアタワーにおいて、11月23日(金・祝)に『東京オトナ大学』を開催いたします。第8回目を迎える今回は、フェラーリ エンツォのデザインや TRAIN SUITE 四季島の車両デザインプロデュースを手がけた奥山清行氏による基調講演のほか、サピアタワーに入居している10大学の講師陣が、地方創生やインバウンド、人工知能や自然科学、アジアの経済や文化などの様々なテーマについて「これからの日本」を考える講義を行います。



株式会社 KEN OKUYAMA DESIGN 代表取締役

基調講演 奥山 清行 氏

1959 年山形市生まれ。ゼネラルモーターズ社(米)チーフデザイナー、 ポルシェ社(独)シニアデザイナー、ピニンファリーナ社(伊) デザインディレクターなどを経て、2007 年 KEN OKUYAMA DESIGN を設立。 フェラーリ エンツォのデザインや TRAIN SUITE 四季島の車両デザインプロデュースも手がける。山形・東京・ロサンゼルスを拠点に企業コンサルティングのほか、自身のブランドで自動車・インテリアプロダクト・眼鏡の開発から販売までも行っている。

【実施概要】

- ■名称:「東京オトナ大学」(とうきょうおとなだいがく)
- ■日程:2018年11月23日(金・祝) 13:00~18:00 (受付開始 12:00)
- ■会場:〒100-0005 東京都千代田区丸の内 1-7-12 サピアタワー4、5 階 ステーションコンファレンス東京
- ■主催:株式会社ジェイアール東日本ビルティング
- ■協賛(講義提供):

東京大学 先端科学技術研究センター、東北大学、北海道大学、関西大学、関西学院大学、甲南大学、 産業能率大学総合研究所、西南学院大学、立命館アジア太平洋大学、流通科学大学

- ■協力:東日本旅客鉄道株式会社、東京ステーションシティ運営協議会
- ■参加:無料、WEB サイト(http://www.otonadaigaku.jp/)での事前申込制(10 月 24 日受付開始予定)
- ■一般問い合わせ: 東京オトナ大学事務局 TEL 03-6386-4911 (平日 11:00~18:00)



東京駅サピアタワー・知性と出会う

講演・講義一覧

■基調講演(15:00~16:00)

講演者	講演内容
株式会社 KEN OKUYAMA DESIGN	伝統技術のブランディングと地方創生 一日本のものづくりを考える―
1 V2X-7A(11) [X	沿線の工芸品を取り入れた豪華列車「TRAIN SUITE四季島」や有田焼創業400年事業「ARITA 400project」を手がけた経験を通じて、日本のものづくりの観点から、伝統技術のブランディングや地方創生の取り組みなどをお話しいただきます。

■講義(13:00~14:30/16:30~18:00)

<13:00~14:30>

北海道大学 観光学高等研究 まむら ひろし **木村 宏**

講義者

講義内容

田舎に泊まろう!を実践できる農泊の時代がやってきた

「明日の日本を支える観光ビジョン」では、2020年までに全国の農山漁村で「農泊」を推進し、50地域 を新たに創出するとうたっています。訪日外国人の趣向も都市から地方に移り、ますます農山漁村の魅 力を求めて観光客が拡散する兆しを見せています。農閑期の農家の副次的収入の確保や海水浴など の行楽地における宿泊施設提供の目的から始まった日本の民宿の歴史を踏まえ、昨今のゲストハウスや ファームイン、通年を通した農山漁村の魅力を伝えその滞在空間を提供する、まさに田舎のライフスタイル を体現できる宿泊形態が興味の対象になってきました。海外の事例も交え、本講では「農泊」を通して 地域の再生を考えてみます。

関西大学 社会安全学部

准教授

センター

特任教授

こんどう せいじ **近藤 誠司**



いのちを守る災害情報 ~災害多発時代を生き抜く知恵~

災害情報は「鵺」(ぬえ)のようにつかみどころがなく、扱いが難しいものです。情報が無ければとても困り ますが(情報の空白域の問題等)、情報があっても困る場合があります(情報の洪水、格差や鮮度の 問題等)。また、リスクを認識するための被害想定や防災計画、ハザードマップ等が、かえって防災に背 を向ける人を生み出すことや、防災学習や防災訓練が"防災嫌い"を増やすネガティブキャンペーンにつな がることなど、"社会的逆機能"の問題にも配視する必要があります。高度情報社会が到来した現代社 会において、いのちを守り、救い、支えるために"生きた"災害情報を共有するにはどうすればよいのか、一 緒に考えてみましょう。

甲南大学 理工学部 物理学科 教授

とみなが のぞむ 富永 望



"時空のさざなみ"重力波天文学の世界へ

重力波は、重力による空間の歪みが光速で伝わる現象、例えるなら"時空のさざなみ"です。 人類は長らくこの現象の直接観測を目指してきました。2015年アメリカの重力波望遠鏡が遂にブラック ホール合体からの重力波直接検出に初めて成功しました。さらに、2017年には中性子星合体からの重 力波が検出され、そこでランタノイドと呼ばれる金やプラチナのように重い元素が合成されていることが明ら かとなりました。この2015年から2017年にかけて誕生した新しい天文学「重力波天文学」についてお話 しします。



西南学院大学 国際文化学部 国際文化学科 教授

金縄 初美



多文化社会を生きる一地域文化の維持と多様化を東アジアから考える一

観光化の推進、外国人労働者受け入れ拡大などにより、地域社会において多文化に直面する場面は 更に増加し、多文化が共生する社会の構築が求められています。しかし、長年維持されてきた伝統や 価値観が息づく地域社会において、地域文化を維持しながら多様性を包摂するのには多くのプロセスを 要し、その過程には多種多様な変化がみられるでしょう。本講義では、地域性と多様性を包摂する生 活と意識に着目し、東アジアにおける多民族・多文化社会の事例を取り上げながら、今日直面する多 文化社会の在り方について多角的に考えたいと思います。

流通科学大学 商学部 教授

森 隆行



物流の視点からアジアとの経済関係を考える

日本の消費市場が縮小する一方で、アジアを中心に新興国の消費市場は拡大しています。これまで 国内産業と考えられていた消費産業を含めた多くの日本企業がアジアへの進出を加速させています。 企業活動は地球規模に広がっており、それを支えるサプライチェーンもグローバルに拡大しています。その 企業活動を支えるのが物流です。経済の拡大、所得水準の向上に伴い、アジアを中心に消費構造が 変化しています。そうした中で、ニーズが高まっているのがコールドチェーン(低温物流)であり、ハラール 対応です。経済の伸長が著しいアジアを中心にコールドチェーンとハラールのキーワードをもとに物流の視 点からアジア経済との関係を読み解きます。

<16:30~18:00>

講義者

東京大学 先端科学技術 研究センター 客員研究員





火山が原発を止める――司法と自然科学の対話は可能か?

2017年12月、広島高等裁判所は、広島県の住民らの申立てを容れて、四国電力伊方原発3号機 の運転差止めを命ずる仮処分決定を発しました。阿蘇カルデラに巨大噴火が起きて、その火砕流が海を 越えて原発サイトに到達する可能性を否定できない、というのがその理由でした。裁判官の大半は、自 然科学については素人ですが、職責上、訴えに対しては必ず答えを出さなければならず、「専門家のセカ ンド・オピニオンを取ってくれ」、などとは間違ってもいえません。では、この事件で裁判所は、どういう情報・ 資料をもとに、どういう思考プロセスを経て結論に至ったのでしょうか。決定文を読み解きながら、司法と自 然科学との対話は可能なのか、を考えます。

講義内容

東北大学大学院 工学研究科 都市·建築学専攻 教授

五十嵐 太郎



オリンピックと建築の歴史を振り返る

現在、隈研吾氏の設計による新国立競技場が着々と建設されていますが、国際コンペで選ばれたザハ・ ハディド氏の最優秀案がメディアを巻き込む議論を呼び、白紙撤回となったことは記憶に新しいところで す。オリンピックの競技施設はメディア建築というべき性格をもつことは、2008年の北京大会で登場した 「鳥の巣」のユニークなデザインからもうかがえます。日本も、かつて1964年の東京オリンピックにあわせて、 丹下健三氏による国立代々木競技場や山田守氏による日本武道館など、印象的な建築が幾つか誕 生しました。本講義では、これまでのオリンピックに関連する建築の歴史をたどりながら、現代の東京を考 えていきます。

関西学院大学 専任講師

おおよう くらとも 大用 庫智



実例から学ぶ人工知能の得意と不得意

近年の人工知能は毎日のようにメディアに取り上げられ、社会に普及し始めています。人工知能は我々 の生活の一部を効率化します。それにより人工知能は人間の生活を豊かにすると考えられています。しか し、大多数の人にとって「人工知能とは何か」という問いに正確に答えることは難しいです。また、人工知 能がどのような所で利用されているのかも気がつきにくいです。本講義ではいくつかの実例を通して人工知 能を紹介します。そして、近年の人工知能の学習の仕方を理解しながら、人工知能が得意な事と苦手 な事について考えます。



産業能率大学 経営学部 教授

かとうはじめ



なぜ、駅ビル・エキナカは発展したのか〜都市型駅ビルの躍進、そして地域創生型駅ビルの誕生〜

駅ビルの歴史は非常に古く、1950年に愛知県の豊橋駅にできた民衆駅ビルが初といわれています。その後長い停滞が続き、駅ビルはどのように発展したのか、その背景にはどんな社会変化があったのか。駅ビル特有の消費行動とは何か。消費者が思わず駅ビルで買ってしまう消費心理とは何なのか。駅ならではの消費について様々な角度から考察していきます。また、各種メディアから取材を受け話題を集める関東近郊の地域創生型駅ビル。地域と連携し、地域ならではのコンテンツを生かすことで魅力を高め、東京都心からの集客を実現する、全く新しい発想が生んだこの画期的な駅ビルについて、その戦略のすばらしさと今後の可能性についてお話します。

立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 准教授

> く ぼ たかゆき **久保 隆行**



日本のインバウンド・ツーリズムの課題と未来~「地方創生」の切り札として

日本を訪問する外国人「インバウンド」は、近年著しく増加しています。「インバウンド」のさらなる取り込みは、人口減少にともない内需が縮小する日本において、経済成長を持続するための切り札ともいえます。本授業では、観光学における「インバウンド」や「ツーリズム」の学術的な定義を解説したうえで、国際ツーリズムのグローバルな動向、日本のインバウンド・ツーリズムの実態についてデータを用いながら明らかにしていきます。また、「インバウンド・ツーリスト」の取り込みにおいて生じている地域間格差の実態にも触れながら、「地方創生」を実現するためのインバウンド戦略の在り方について議論を深めていきます。

【参考】これまでの基調講演 ※所属、肩書は開催当時のものです

2011 年 JAXA 宇宙科学研究本部 宇宙航行システム研究系教授 川口淳一郎氏

「『はやぶさ』―地球帰還までの7年間 60 億 km の運用の軌跡、それを支えたもの」

日本テレビ「NEWS ZERO」メーンキャスター・関西学院大学教授 村尾信尚氏

「それでも私たちは立ち上がる」

2012年 サイエンス作家 竹内 薫氏

「環境と科学の共存を目指して」 - それでも我々は科学に賭けるしかないー

2013年 株式会社東レ経営研究所 特別顧問 佐々木常夫氏

「これからの時代の経営とリーダーシップ」

2014年 藤原正彦氏

「東京、そして日本のこれから」

2015 年 映画作家 河瀨直美氏

「映画に生きる美しき日本」世界と繋がるユニバーサルな日本文化の創造をめざして

2016年 アルピニスト 野口 健氏

「富士山から日本を考える」 - 環境との共生と地方創生―

2017 年 日本ホテル株式会社 ホテルメトロポリタン エドモント 取締役統括名誉総料理長 中村勝宏氏

「食のおもてなし」 - 洞爺湖サミットの場合―

